

第2章

青少年を対象とした
ボランティアコーディネーター養成
研修プログラムの企画・立案の視点

第2章 青少年を対象としたボランティアコーディネーター養成研修プログラムの企画・立案の視点

青少年のボランティア活動の推進を図るために全国に設置された「体験活動ボランティア活動支援センター」（文部科学省委嘱）の中心的な担い手であるコーディネーターへの期待が高まっている。

ここでは、コーディネーターの資質の向上を図るための研修を企画・立案する上での留意点について述べる。

第1節 企画にあたって

支援センターに所属するコーディネーターは、青少年のボランティア活動の推進を図るために極めて重要な役割を担っており（「概念図」8頁参照）、高い専門性が求められている。

そこで、コーディネーターの資質向上を図る研修を企画するにあたり、担当者が留意すべき基本的な事柄として、次のようなことが考えられる。

I 研修の企画・立案ための組織づくり

効果的な研修を企画・立案するためには、担当者は多様な立場の関係者と密接に関わりを持ち、意見や情報を収集することが大切である。そのためには、研修の対象者となるコーディネーターの他、ボランティア活動推進機関・団体関係者、学校教育・社会教育・社会福祉関係者などの協力を得て企画委員会を組織し、その委員会で出された意見を研修計画に反映させたいものである。

II 研修の企画・立案のための情報収集

研修の企画・立案にあたり必要な情報を収集して計画立案に反映させることが必要である。例えば支援センターに所属しているコーディネーターの業務の実態、コーディネーターが求めている研修内容、コーディネーター研修等を既に実施している他の自治体やボランティア活動推進機関・団体などの研修計画、青少年のボランティアニーズ、学校や社会教育施設・社会福祉施設などのボランティアニーズ、また、講師を選ぶ場合の人材情報なども企画・立案に必要な情報である。

III 研修の企画・立案

必要な情報を収集し、その情報を活用して研修目的、対象者の特定、研修期間や時間、研修項目と内容、研修方法、講師などを先に述べた研修の企画・立案のための組織で検討することが望ましい。その際、次の事柄に留意したいものである。

- 1 計画する研修の目的と対象者を明確にすることである。その研修が現職のコーディネーターを対象とするのか、コーディネーターを志す人をも対象にするのかを明確にすることで研修プログラムの編成が容易になるだけでなく、効果的な研修が期待できる。受講者を確保するために対象を曖昧にするケースが多く見られるが、このことは主たる受講者のニーズに応えることにはならず研修意欲を弱めることにもなる。
- 2 研修の効果は担当する講師によって左右されることから、選定については十分な時

間を費やし検討することが大切である。

そのために、収集した人材情報をもとに複数の候補者を選び、それぞれの候補者の実績や指導力、最も得意とする指導の分野を精査して依頼することが望ましい。講師を依頼するにあたっては研修の目的や対象者、さらには研修方法を伝え、主催者との意思疎通を図ることが何よりも大切であり、講師に全てを任せることは慎むべきである。さらに、研修の担当者は、ボランティア活動に関わっている研究者や学校・社会教育・社会福祉・ボランティア活動推進機関・団体などと連携を深め、日常的に人材の情報などを収集し蓄積しておくことが求められる。

- 3 研修の対象者に周知するにあたっては、「どのような目的なのか」「何を研修するのか」「事前に準備すべきことは何か」などを明らかにして研修への参加意欲を高める工夫と配慮が必要である。
- 4 研修を実施する主催者は、コーディネーター研修の中長期の計画を策定することとあわせて、受講者の自己学習を推進する方策を考えたいものである。

第2節 研修プログラムの編成

研修プログラムは研修項目、内容・方法、指導者、場所、時間などによって構成され、それぞれが研修目的を達成するために相乗効果を及ぼすように編成することが望ましい。

I 研修項目と目的について

我が国においては、コーディネーターについての研究の歴史が浅いこともあり、青少年を専ら担当するコーディネーターの資質向上を目的とした研修プログラムの開発は行われず今日に至っている。そのため、都道府県の研修担当者やコーディネーターから「研修プログラムの開発」の要望が多く聞かれ、このようなニーズに応えるため、本委員会は養成研修プログラムの開発に取り組んだ。

本委員会では支援センターの役割を明確にし、所属するコーディネーターが持つべき資質として8項目（本報告書第1章参照）にまとめ、その資質を向上させるための「研修項目」の試案を作成した。

また、ここでは便宜的に「基礎コース」（初めて支援センターのコーディネーターの職についた者や支援センターのコーディネーターを志す者）と「実践コース」（支援センターのコーディネーターとして経験のある者）の2コースを設定し、次のような「研修項目・目的」を考えた。

なお、これらの研修項目・目的を全て一度に研修することは物理的にも無理があるので、実際に研修プログラムを作成するにあたっては、受講者の経験等に応じて研修項目・目的を設定することが現実的である。

「基礎コース」

支援センターのコーディネーターが持つべきボランティア活動に関する基礎的な知識や技術を習得するために考えられる研修項目・目的。

1 「ボランティア活動の理念」

ボランティア活動の理念である「自発性」「公共性」「無償性」「先駆性」などについて正しく理解し、ボランティア活動を推進する社会的な意義を理解する。

2 「体験活動ボランティア活動支援センターの意義とコーディネーターの役割」

支援センターが設置された社会的な背景と意義及びコーディネーターの役割を理解し、各地の支援センターの事業とコーディネーターの具体的な業務を理解する。

3 「都道府県におけるボランティア活動の現状と課題」

支援センターが設置される都道府県においてのボランティア活動やNPO活動の現状と課題を理解する。

4 「我が国におけるボランティア活動の現状と課題」

我が国におけるボランティア活動の歴史や施策の動向について理解し、ボランティア活動の現状と課題を理解する。

5 「青少年の成長とボランティア活動」

青少年の成長とボランティア活動の関係について理解し、青少年のボランティア活動を推進する学校や社会の役割について理解する。

6 「青少年のボランティア活動の実際」

地域で行われる青少年のボランティア活動の現状と課題を理解し、参加体験をすることにより、青少年や青少年を受け入れる活動先のボランティアニーズを理解する。

7 「現代の青少年の特性」

激しい社会変化の中で生きる青少年の意識や生活行動について理解する。

8 「ボランティア活動に関する情報収集」

ボランティア活動に関する情報収集の現状と課題について理解し、効果的に収集する方法や収集した情報の整理方法を習得する。

9 「ボランティア活動に関する情報提供」

ボランティア活動に関する情報提供の現状と課題について理解し、青少年や学校・社会教育施設、社会福祉施設等への効果的な提供方法を習得する。

10 「ボランティア活動推進機関・団体の現状と課題」

都道府県におけるボランティア活動推進機関やボランティア団体等の現状と課題を理解し、連携・協力の技術を習得する。

「実践コース」

コーディネーターの日常の業務をさらに充実させるにあたり、必要とされる知識や技術を習得するために考えられる研修項目・目的。

1 「学校教育の理解」

学校の組織や教育活動の現状と課題を理解し、学校で行われているボランティア学習やボランティア活動の実態を理解する。

2 「社会教育施設の理解」

公民館や図書館など社会教育施設の現状と課題を理解し、そこで行われる青少年を対象としたボランティア学習やボランティア活動の現状と課題を理解する。

- 3 「社会福祉施設・団体の理解」

老人ホームや自立のための作業所など社会福祉施設や団体の現状と課題を理解し、そこで行われる青少年を対象としたボランティア受け入れの現状と課題を理解する。
- 4 「連携・協力の意義」

ボランティア活動を推進するために他の関係機関や団体などとの連携・協力の意義を理解し、効果的な連携・協力方法を理解する。
- 5 「活動相談・助言の現状と課題」

ボランティア活動に関する活動相談の現状と課題を理解し、青少年や学校、社会教育施設、社会福祉施設などからの相談に対応するための実践的な技術を習得する。
- 6 「ニーズ調査の意義と方法」

ボランティア活動に関する個人的ニーズや社会的ニーズを的確に把握するための調査の意義と現状を理解し、ニーズ調査の実践的な技術を習得する。
- 7 「調査データの活用」

調査データの活用の現状と課題を理解し、自ら行った調査や各種調査のデータ分析と活用方法を習得する。
- 8 「ボランティア学習（事前学習）の意義」

ボランティア活動とボランティア学習（事前学習）について理解し、ボランティア活動を実施する前に、青少年が身につけなければならない事項を理解する。
- 9 「ボランティア学習プログラム企画・立案の技術」

学校や社会教育施設、ボランティア活動推進機関が実施するボランティア学習プログラムの意義と現状を理解し、ボランティア学習プログラムの企画・立案に必要な技術を習得する。
- 10 「教材開発の意義と方法」

ボランティア学習で活用される教材の意義と現状を理解し、ボランティア学習が効果的に行われる教材の開発の技術を習得する。
- 11 「ボランティア学習やボランティア活動の評価の視点」

ボランティア学習やボランティア活動の評価の意義と現状について理解し、評価方法の技術を習得する。
- 12 「NPO、NGOの現状と課題」

我が国におけるNPOやNGOの社会的意義や関係法を理解するとともに、具体的な活動状況や課題を理解する。
- 13 「諸外国におけるボランティア活動の現状」

アメリカやイギリスなどボランティア活動先進国における青少年のボランティア活動の現状やボランティア活動を支援するシステムを理解する。
- 14 「グループ・ワークの理論と実際」

ボランティアグループにおけるリーダーやメンバーの役割について理解し、ボランティアグループの力量を高めるワークショップの技術を習得する。
- 15 「グループの組織化と運営」

ボランティア活動参加後の青少年のグループづくりの必要性について理解し、グループの組織化と運営に必要な知識や技術を習得する。

16 「リーダーシップ・トレーニングの実際」

ボランティアグループのリーダー育成の意義を理解し、そのための技術を習得する。

(注：上記項目に記した数字は研修項目の優先順位を示したものではない。)

(「研修項目(例)」9頁、「研修項目・内容(例)」30-32頁参照)

II 研修内容の配列・研修方法など

研修プログラムを編成するにあたり留意すべき事柄として、次のようなことが考えられる。

- 1 研修項目・内容を選定する際に総花的になることを慎み、研修目的に照らして重点化に留意する。研修内容を多く提供することは、一見効果的に見えるが受講者にとって研修の深化には結びつかないケースが多々見受けられる。
- 2 研修項目・内容の配列にあたっては、導入部の研修内容よりも終結時の研修内容が高度化するように配慮する。
- 3 講演・講義など静的な研修方法に偏らず、受講者が主体的に参加できる動的な方法、例えばワークショップや現地研修、事例研究・協議などを積極的に取り入れる。
- 4 研修内容に即した資料の提供とビデオテープなど視聴覚教材の活用を図り、研修内容を深化させる。
- 5 プログラムは、ゆとりある時間配分を心掛ける。研修方法によっては予想以上に時間を費やし、内容を消化できずに終るケースが多々見受けられる。とりわけ参加型の研修方法を取り入れる場合は十分な時間の確保が必要である。
- 6 受講者が研修の運営に主体的に参加できる方策を考え、主催者と受講者が一体となって研修を充実、成功させる雰囲気づくりに心がける。

第3節 受講者へのバックアップ

行政職員や団体職員の現職研修や各種の指導者研修においては、単発に終ることなく体系的に行われるのが理想であり、そのことによって資質向上が期待される。コーディネーターの研修も同様であり、各都道府県にあっては専門性を高めるための研修の体系化を図る必要がある。

当面の課題としては、研修に参加したコーディネーターを対象に日常的な相談に応じるシステムを確立する他、全国的な情報の提供や自由に意見交換を行うことができるメーリングリストを作成するなどのサービスを行うことが必要であろう。さらに各市町村に配置されているコーディネーターが自主的に研修を開催したり、実践交流が行われるための組織化と運営について積極的に支援することが必要であろう。

先にも述べたように青少年を専ら担当するコーディネーターを対象とした研修はようやく走り出した段階であり、今後、各地で実践を深めより充実した内容になることを期待したい。

(木村 清一)

研修項目・内容（例）

<基礎コース>

研修項目	研 修 内 容
ボランティア活動の理念	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動とは ○生涯学習とボランティア活動 ○青少年とボランティア活動 など
体験活動ボランティア活動支援センターの意義とコーディネーターの役割	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策 ○都道府県支援センター、市区町村支援センターの運営 ○コーディネーターの役割と業務 など
都道府県におけるボランティア活動の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動に関する施策の動向 ○ボランティア活動の現状と課題 ○住民意識とボランティア活動の実際 など
我が国におけるボランティア活動の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○我が国のボランティア活動の歴史や施策の動向 ○我が国のボランティア活動の現状と課題 など
青少年の成長とボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年の成長とボランティア活動の意義 ○青少年のボランティア活動を推進するための学校や社会の役割 ○発達段階に応じたボランティア活動 など
青少年のボランティア活動の実際	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年のボランティア活動の現状と課題 ○青少年のボランティアニーズ ○青少年のボランティア活動参加体験 など
現代の青少年の特性	<ul style="list-style-type: none"> ○現代青少年の意識 ○地域の青少年の生活行動の現状と課題 ○青少年との意見交換 など
ボランティア活動推進機関・団体の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動推進機関や団体の現状と課題 ○ボランティア活動推進機関や団体との意見交換 など
ボランティア活動に関する情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ○情報収集の現状と課題 ○情報収集・整理の技術 ○情報収集のためのワークショップ など
ボランティア活動に関する情報提供について	<ul style="list-style-type: none"> ○情報提供の現状と課題 ○情報提供の技術 ○情報提供のためのワークショップ など

研修項目・内容（例）

<実践コース>

研修項目	研 修 内 容
学校教育の理解	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の組織や教育活動の現状 ○総合的な学習の時間 ○ボランティア学習とボランティア活動の実際 ○学校との連携 など
社会教育施設の理解	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育施設の現状と課題 ○社会教育施設におけるボランティア活動 ○社会教育施設との連携 など
社会福祉施設・団体の理解	<ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉施設・団体の現状と課題 ○社会福祉施設・団体におけるボランティア活動の実際 ○社会福祉施設・団体との連携 など
連携・協力の意義	<ul style="list-style-type: none"> ○連携・協力の意義 ○連携・協力の実際 ○効果的な連携・協力方法 など
活動相談・助言の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○活動相談・助言の現状と課題 ○活動相談・助言の実際 ○活動相談・助言の技術 など
ニーズ調査の意義と方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ニーズ調査の意義と方法 ○ニーズ調査の実際 ○調査票の作成 など
調査データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ○調査データの整理と分析 ○調査データの活用の実際 など
ボランティア学習の意義	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア学習とは ○ボランティア学習と事前学習 ○ボランティア学習と事前学習の実際 など
ボランティア学習プログラム企画・立案の技術	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア学習プログラムの意義 ○企画・立案の視点と技術 ○学習プログラムの作成 など

教材開発の意義と方法	<ul style="list-style-type: none"> ○教材開発の意義と現状 ○教材の実際と活用方法 ○教材開発の技術 など
ボランティア学習やボランティア活動の評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア学習やボランティア活動の評価の意義と現状 ○評価の視点 ○評価表の作成 など
NPO、NGOの現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○NPO、NGOの現状と関係法令 ○NPO、NGOにおけるボランティア活動の実際 ○NPO、NGOとの連携 など
諸外国におけるボランティア活動の現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動先進国の現状 ○諸外国の青少年とボランティア活動 など
グループ・ワークの理論と実際	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダーの役割、メンバーの役割 ○グループ機能を高めるワークショップ など
グループの組織化と運営	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年のグループづくり ○ボランティアグループ運営の視点と技術 ○グループの情報交換 など
リーダーシップ・トレーニングの実際	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアグループのリーダーシップ ○リーダーシップを高めるワークショップ ○リーダーの情報交換 など